

(2017/4/17 経済財政諮問会議 経済・財政一体改革推進委員会 評価・分析WG DBJ資料より)

## わが国水道事業の現状・課題・将来予測と今後のソリューションの方向性

---

2017年8月1日



# 内容

---

1. わが国水道事業の現状・課題・将来予測
2. わが国水道事業のソリューションの方向性 (案)
3. 地域の課題・実情に応じた取組の必要性和将来ビジョン  
(参考) DBJの公共インフラ・水道分野における取組について

---

# 1. わが国水道事業の現状・課題・将来予測

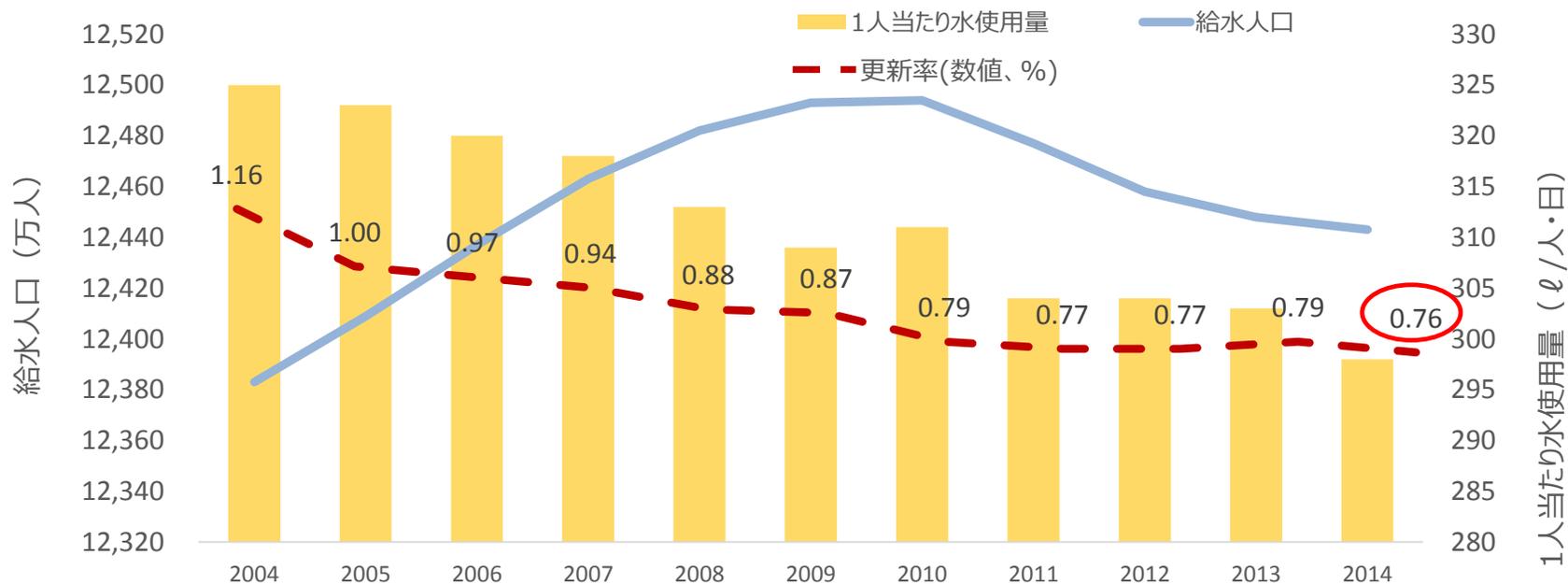
## わが国水道事業が直面する課題 ～収益減少・更新投資の増加～

**全国1,348事業者**（2014年度末。法適用企業）

**課題1：給水人口の減少**（2010年をピークに減少、1人当たり水使用量も減少）

**課題2：設備・管路の老朽化、更新対応**（管路更新率は0.76%、全ての管路を更新するには約130年が必要） **→** **今後の債務増加懸念も**

### 給水人口・水使用量、更新率の推移



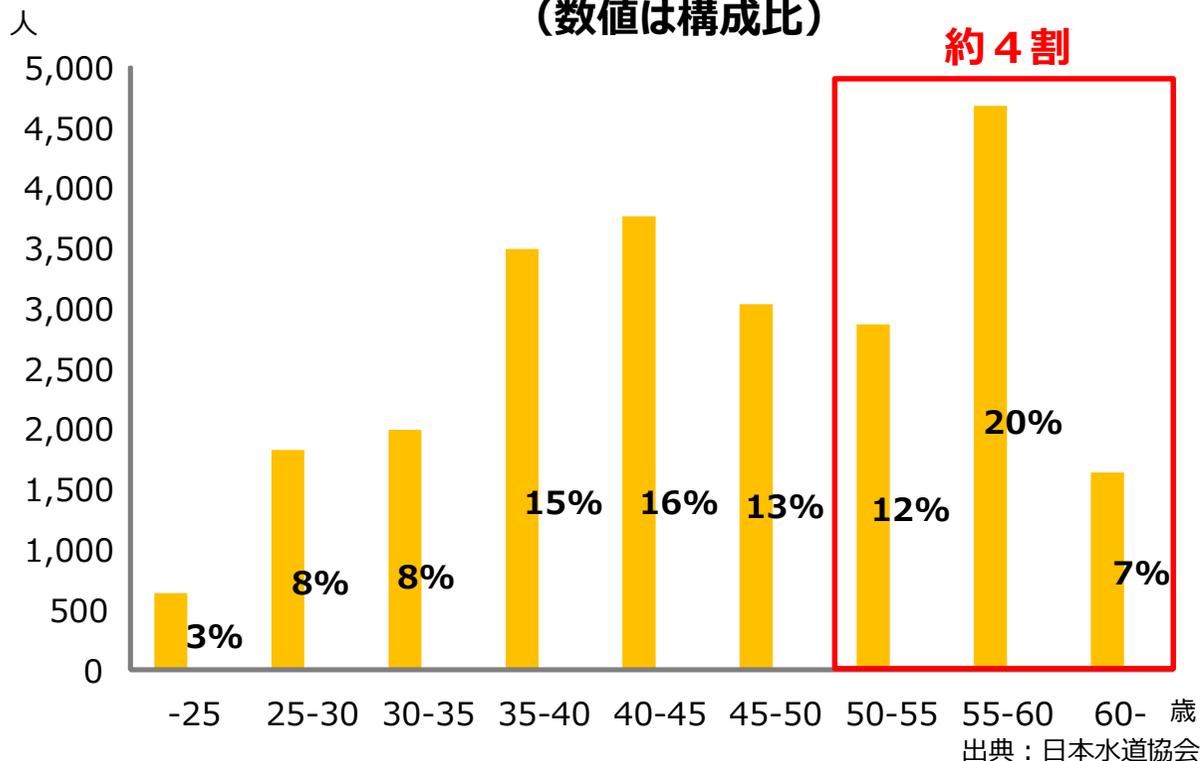
出典：総務省、厚生労働省

## わが国水道事業が直面する課題 ～技術承継・料金格差～

**課題3：職員の高齢化、技術承継**（技術職員は50歳以上が約4割を占める）

**課題4：料金格差**（最も料金が高い地公体と低い地公体の差は10倍近い）

年齢別の技術系職員数（2014年度）  
（数値は構成比）



水道料金の高い地公体（単位：円/10m<sup>3</sup>）

1位	群馬県長野原町	3,510
2位	北海道羅臼町	3,360
3位	熊本県上天草市	3,132
4位	福島県伊達市	3,078
5位	北海道増毛町	3,060

水道料金の低い地公体（単位：円/10m<sup>3</sup>）

1位	兵庫県赤穂市	367
2位	静岡県小山町	384
3位	山梨県富士河口湖町	455
4位	静岡県沼津市	460
5位	東京都昭島市	518

出典：総務省「地方公営企業年鑑」よりDBJ作成

## わが国水道事業が直面する課題 ～給水人口別の損益状況～

### 課題5：人口規模の小さな地域ほど経営が厳しい

(給水損益は、概ね人口5万人を割ると赤字 → 一般会計負担金等で補填)

#### 給水人口別 損益状況 (平成25年度)

給水人口規模		給水人口1万人未満		給水人口1～3万人		給水人口3～5万人		給水人口5～15万人		給水人口15万人以上	
事業者数		233		395		197		310		124	
給水人口(人)		6,671		18,630		38,757		84,742		317,887	
損益計算書	(単位：百万円)	金額	比率(%)	金額	比率(%)	金額	比率(%)	金額	比率(%)	金額	比率(%)
	営業収益	155	100.0	385	100.0	747	100.0	1,668	100.0	6,027	100.0
	給水収益	151	97.4	370	96.1	718	96.1	1,591	95.4	5,735	95.2
	経常費用	170	109.6	387	100.6	753	100.8	1,612	96.7	5,787	96.0
	給水費用	170	109.4	384	99.8	747	100.0	1,596	95.7	5,711	94.8
	給水損益	△ 19	△ 11.9	△ 14	△ 3.7	△ 29	△ 3.9	△ 5	△ 0.3	24	0.4
	営業外収益	25	16.3	29	7.5	58	7.8	74	4.5	278	4.6
	一般会計負担金等	19	12.3	20	5.3	38	5.1	29	1.7	57	0.9
	経常損益	10	6.7	27	6.9	52	6.9	130	7.8	518	8.6
	純損益	3	1.9	24	6.4	42	5.7	123	7.4	489	8.1

出典：総務省「地方公営企業年鑑」よりDBJ作成